



図 2 Purpura Nephritis

蛋白卅~卅)や紫斑病性腎炎で血清シアル酸の有意の上昇がみられたことは、これらと結合する糖蛋白や糖脂質と腎炎の発症や進展との何らかの関係を示唆していると思われた。

## 小児のステロイド不応性ネフローゼ症候群に関する研究

日本大学小児科 北 川 照 男  
 栖 原 優  
 平 林 和 夫  
 稻 見 誠

小児のネフローゼ症候群の約20%の症例は、ステロイドによる治療に反応しないといわれている。このステロイド抵抗性ネフローゼ症候群には、原発性腎疾患によるもの、および続発性腎疾患によるものなど、いろいろな病型があり、その治療も大々に適した方法を用うる必要があり、その実態を明かにすることは重要である。過去

15年間に経験した108例の小児ネフローゼ症候群のうち、ステロイド治療に反応しなかった27例の臨床所見、並びに病理学的所見について報告する。

### 〔研究方法〕

体表面積当り 40~60 mg/day, または体重当り 1~2 mg/day のプレドニンを4週間持続的に投与し、尿蛋白

が陰性化したものをステロイド反応性とし、陰性化しないものをステロイド抵抗性とした。また、これらのネフローゼ症候群を既往歴、家族歴、現病歴、理学的所見で各種臨床検査所見より原発性と続発性とにわけ、その一部について腎生検を行って、光顕、電顕、蛍光抗体法により病理組織学的研究を行った。

#### 〔研究成績および考按〕

ステロイドに不応性の小児ネフローゼ症候群の年齢分布は、11才から12才にピークを有するなだらかな曲線を示したが、ステロイド反応性ネフローゼ症候群の年齢分布は、2才から5才に比較的鋭いピークを示し、両群は明らかに異なる年齢分布を示すのが認められた。このステロイド反応性ネフローゼ症候群の年齢分布は、Cameronが報告している微少変化型ネフローゼ症候群の年齢分布とよく一致し、われわれが示したステロイド不応性ネフローゼ症候群の年齢分布は、Cameronが示した微少変化型以外のネフローゼ症候群の年齢分布曲線とよく一致した。

これらの症例を原発性ネフローゼ症候群と続発性ネフローゼ症候群とにわけて、そのステロイド反応性を比較したところ、原発性ネフローゼ症候群では94例中、9例(84%)がステロイドによく反応し、94例中15例(16.0%)が、不応性であったが、続発性ネフローゼ症候群では14例中2例(14.3%)がステロイドに反応したのに対して、14例中12例(85.7%)が不応性であり、ステロイド不応性ネフローゼ症候群は続発性の症例に多い傾向がみられた。なお、小児の続発性ネフローゼ症候群のうちで、ステロイドに反応したものはループス腎炎によるもの1例、HB抗原に関連した腎症1例で、ネフローゼ症候群を呈した紫斑病腎炎7例、糖尿病性腎症1例、アルポート症候群2例、ループス腎炎1例、HB抗原に関連した腎症1例であった(表1)。

ステロイド不応性の原発性ネフローゼ症候群15例中10例について腎生検を施行したが、微少変化型1例、

表1 小児ネフローゼ症候群のステロイド反応性からみた分類

A. 原発性腎疾患	症例数	男/女比
a. ステロイド反応性	79(73.1%)	59/20
b. ステロイド不応性	15(13.9%)	9/6
(低補体性腎炎 4例)		
B. 続発性腎疾患		
a. ステロイド反応性	2 (1.9%)	2/0
(ループス腎炎 1例)		
(HB抗原陽性腎症 1例)		
b. ステロイド不応性	12 (11.1%)	5/7
(紫斑病性腎炎 7例)		
(ループス腎炎 1例)		
(HB抗原陽性腎症 1例)		
(糖尿病性腎症 1例)		
(アルポート症候群 2例)		
合計		108 75/33

MPGN 4例、mesangial proliferative 糸球体腎炎3例、約60%の糸球体に半月を認める増生性糸球体腎炎1例、FGS 1例であり、その病理像は極めて多彩であった。したがって、ステロイド抵抗性小児ネフローゼ症候群については、まず、原発性か続発性かを診断し、また、腎生検によりその腎組織型について病理学的に診断してから、夫々に適した治療と管理を行うことが必要と考えられる。

#### 〔むすび〕

ステロイド抵抗性小児ネフローゼ症候群の一部に、進行性に腎機能が低下する症例が含まれており、その治療は困難である。したがって、その実態を明かにすることが重要と考え、その27例を研究した。その結果、その病因もまた、病理像も多彩であり、各症例についてこれらを明らかにし、夫々に適した治療法を採用することが重要と思われた。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



小児のネフローゼ症候群の約 20%の症例は,ステロイドによる治療に反応しないといわれている。このステロイド抵抗性ネフローゼ症候群には,原発性腎疾患によるもの,および続発性腎疾患によるものなど,いろいろな病型があり,その治療も大々に適した方法を用うる必要があり,その実態を明かにすることは重要である。過去 15 年間に経験した 108 例の小児ネフローゼ症候群のうち,ステロイド治療に反応しなかった 27 例の臨床所見,並びに病理学的所見について報告する。